

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
岩手県	遠野市	平成28年度～令和 2 年度	平成28年度～令和 2 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※ 1) (令和 年度)	目標 (割合※ 1) (令和 年度) A	実績 (割合※ 1) (令和 年度) B	実績/目標 ※ 2	
排出量	事業系 総排出量	t	t (%)	t (%)	%
	1 事業所当たりの排出量	t	t (%)	t (%)	%
	生活系 総排出量	t	t (%)	t (%)	%
	1 人当たりの排出量	kg/人	kg/人 (%)	kg/人 (%)	%
合 計 事業系生活系総排出量合計	t	t (%)	t (%)	%	
再生利用量	直接資源化量	t (%)	t (%)	t (%)	%
	総資源化量	t (%)	t (%)	t (%)	%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	t (%)	t (%)	t (%)	%

※ 1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※ 2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成26年度)	目 標 (令和 2 年度) A	実 績 (令和 2 年度) B	実績/目標 ※ 3	
総人口	28, 830人	26, 273人	25, 896人	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	12, 306人	12, 388人	11, 415人	▲1086. 6%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	42. 7%	47. 2%	44. 1%	31. 1%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	790人	812人	757人	▲150. 0%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	2. 7%	3. 1%	2. 9%	50. 0%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	5, 300人	7, 856人	6, 478人	46. 1%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	18. 4%	29. 9%	25. 0%	57. 4%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	10, 434人	5, 217人	7, 246人	61. 1%

※ 3 (実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの						
処理体制の構築、変更に関するもの						
処理施設の整備に関するもの		浄化槽設置整備事業	遠野市	集合処理区域外において浄化槽を設置しようとする申請者に対し、補助金を交付する。	平成28年度～令和2年度	総事業費 106,414千円 総交付基本額 106,414千円 総交付額 35,029千円 交付対象基数 256基
施設整備に係る計画支援に関するもの						
その他						

3 目標の達成状況に関する評価

(計画全体)

平成28年度から令和2年度までの合併処理浄化槽の整備基数は、目標 300基に対し実績は 256基と、目標を達成できなかった。
また、市全体の汚水処理人口普及率は、令和2年度の目標80.2%に対し実績は72.0%と、目標を達成できなかった。

(個別の目標の達成状況)

処理区域内の人口減少や高齢化の進行により、公共下水道事業、農業集落排水事業及び合併処理浄化槽のいずれも、汚水衛生処理人口及び汚水処理人口普及率の目標を下回ったが、公共下水道及び農業集落排水整備区域（集合処理区域）以外の区域の未処理人口は、着実に減少している。

集合処理区域以外の区域に居住している人口が総人口の50%以上を占める本市においては、汚水処理人口普及率の向上には合併処理浄化槽の設置の一層の促進が必要であることから、今後も引き続き、循環型社会形成推進交付金を活用した本事業を実施し、未処理人口の減少に取り組み、公共用水域の水質保全と生活環境の向上を図っていきたい。

(都道府県知事の所見)

合併処理浄化槽の普及実績については、処理区域内の人口の減少により、汚水処理人口が目標値を下回ったが、着実に浄化槽を整備しており、本計画による施策が浄化槽の普及促進に寄与したことが認められる。

遠野市では既に新規計画（令和3年度～令和7年度）を策定したところであり、今後も引き続き循環型社会形成推進交付金等を活用しながら浄化槽の更なる普及促進に努められたい。

県においても、その手法等について必要に応じて支援していくこととしたい。